

## 果実が完全に熟するまで……

ポーランドの共産主義者への手紙

1921年10月19日

親愛な同志諸君！

ポーランドにおける共産主義運動の成長についてわれわれの新聞にときおりはいる断片的な情報から判断すると、また（それ以上に）ポーランドの若干の有力な同志の報道から判断すると、ポーランドでは革命が成熟しつつある。

労働者革命が成熟しつつある。ポーランド社会党（ロシアふうにいえばエス・エルとメンシェヴィキ、ヨーロッパふうにいえば第二および第二半インタナショナル）の完全な崩壊。労働組合がつぎつぎと共産主義者の味方に移っていること。デモンストレーションの拡大、その他。さしせまった、避けることのできない財政破綻。ポーランドで土地改革の面でブルジョア民主主義派（と小ブルジョアジー）がしてかす大失敗。この失敗はさしせまっており、避けることができない。それは、農村住民の大多数——農民の貧困層全体——を必然的に共産主義者の側におしやる。

財政破綻や、協商国（フランスその他の国）の資本によるポーランドの恥知らずな略奪にともなつて、大国主義的、民族的な幻想の事実による暴露が、大衆の、一般の労働者の、一般の百姓の目にみえ、肌を感じることでできる暴露がはしまっている。

もしすべてこのとおりでとすれば、ポーランドにおける革命（ソヴェト革命）は勝利するにちががなく、それもまもなく勝利するにちがない。こういう事情だとすれば、政府とブルジョアジーが時期尚早の蜂起を流血のなかで鎮圧することによって革命を圧殺するのを、許してはならない。挑発にのってはいはならない。完全な波が成長してくるまで待つべきである。その波はすべてを一掃し、共産主義者に勝利をもたらすであろう。

ブルジョアジーが100人から300人の人間を殺しても、事業はほろびない。だが、彼らが殺戮を挑発して、一方人から三方人の労働者を殺すことができるなら、革命が数年間遅らされることさえ可能である。

国会選挙をおこなうことが政府にとって重要であるとすれば、労働者革命と農民の不満との波が国会を征服するために、全力をかたむけなければならない。

挑発にのってはいはならない。

果実が完全に熟するまで、革命をせひとも育てあげなければならない。ポーランドで内部からソヴェト権力が勝利すれば、巨大な国際的勝利となる。私の考えでは、現在ソヴェト権力がおさめている国際的勝利が20ないし30%だとすれば、ポーランドで内部からソヴェト権力が勝利すれば、共産主義革命の国際的勝利は、40ないし50%に、おそらくは51%にも達するであろう。というのは、ポーランドは、ドイツ、チェコスロヴァキア、ハンガリーと隣接しており、ソヴェト・ポーランドは、ヴェルサイユ講和のうえにきずかれた全体制を掘りくずすだろうからである。

だからこそ、ポーランドの共産主義者には、世界的な責任がかかっているのである。自分の船の舵をしっかりとらなければならない。挑発にのってはいはならない。

ダシンスキー一派のドンバルにたいする暴行に報復するのは、骨おりがいのあることだろうか？ もし報復するなら、銃を射たず、傷を負わせることなしに、ダシンスキーを打ちのめすというやり方でおこなうべきである。それ以外であってはならない。あるいは、これは骨おりがいのあることかもしれない。つまり、もし労働者たちがこの厚かましい男をうまく懲らしめることができ、労働者の士気があがり、労働者の犠牲(投獄または銃殺による)が5人ないし10人とどまるとすればである。だが、あるいは、骨おりがいのないことかもしれない。われわれのドンバルが残虐な暴行を受けたということのほうが、農民のあいだでの扇動にいっそう役だつのではなからうか？ おそらく、これは、ダシンスキーの横つらをなぐりつけることよりも、おくれた農民の同情をわれわれの側に引きつけるうえで、いっそう効果的なのではなからうか？ もっと慎重に比較考量すべきである。

共産主義者の挨拶をもって レーニン

第42巻『ポーランドの共産主義者への手紙』P484～486

1921年10月19日

手稿によって印刷